

第1章 県民選好度調査の概要

第5回県民選好度調査（平成11年11月実施）の概要

本調査は、県民の県政に対する評価、行政に対する要望、さらには県民の生活に関する課題などを把握し、県政の改善に資するため、県民の意向を調査するものである。昭和49年以降、毎年毎年ごとに実施している調査である。

第1章 県民選好度調査の概要

- 1 調査の目的
- 2 調査の対象
- 3 調査の方法
- 4 調査の実施時期
- 5 調査の結果
- 6 調査の意義
- 7 調査の今後の展開
- 8 調査の留意点
- 9 調査の成果
- 10 調査の今後の展開
- 11 調査の留意点
- 12 調査の成果
- 13 調査の今後の展開
- 14 調査の留意点
- 15 調査の成果
- 16 調査の今後の展開
- 17 調査の留意点
- 18 調査の成果
- 19 調査の今後の展開
- 20 調査の留意点
- 21 調査の成果
- 22 調査の今後の展開
- 23 調査の留意点
- 24 調査の成果
- 25 調査の今後の展開
- 26 調査の留意点
- 27 調査の成果
- 28 調査の今後の展開
- 29 調査の留意点
- 30 調査の成果
- 31 調査の今後の展開
- 32 調査の留意点
- 33 調査の成果
- 34 調査の今後の展開
- 35 調査の留意点
- 36 調査の成果
- 37 調査の今後の展開
- 38 調査の留意点
- 39 調査の成果
- 40 調査の今後の展開
- 41 調査の留意点
- 42 調査の成果
- 43 調査の今後の展開
- 44 調査の留意点
- 45 調査の成果
- 46 調査の今後の展開
- 47 調査の留意点
- 48 調査の成果
- 49 調査の今後の展開
- 50 調査の留意点
- 51 調査の成果
- 52 調査の今後の展開
- 53 調査の留意点
- 54 調査の成果
- 55 調査の今後の展開
- 56 調査の留意点
- 57 調査の成果
- 58 調査の今後の展開
- 59 調査の留意点
- 60 調査の成果
- 61 調査の今後の展開
- 62 調査の留意点
- 63 調査の成果
- 64 調査の今後の展開
- 65 調査の留意点
- 66 調査の成果
- 67 調査の今後の展開
- 68 調査の留意点
- 69 調査の成果
- 70 調査の今後の展開
- 71 調査の留意点
- 72 調査の成果
- 73 調査の今後の展開
- 74 調査の留意点
- 75 調査の成果
- 76 調査の今後の展開
- 77 調査の留意点
- 78 調査の成果
- 79 調査の今後の展開
- 80 調査の留意点
- 81 調査の成果
- 82 調査の今後の展開
- 83 調査の留意点
- 84 調査の成果
- 85 調査の今後の展開
- 86 調査の留意点
- 87 調査の成果
- 88 調査の今後の展開
- 89 調査の留意点
- 90 調査の成果
- 91 調査の今後の展開
- 92 調査の留意点
- 93 調査の成果
- 94 調査の今後の展開
- 95 調査の留意点
- 96 調査の成果
- 97 調査の今後の展開
- 98 調査の留意点
- 99 調査の成果
- 100 調査の今後の展開

第1章 県民選好度調査の概要

1 第5回県民選好度調査（平成11年11月調査）の概要

(1) 調査の目的

県民選好度調査は、県民の生活認識や価値観、行政に対する要望、さらには生活各面におけるニーズの変化等を的確に把握し、振興開発計画をはじめ、諸々の行政施策の策定や推進に資することを目的とし、昭和54年以降、概ね5年ごとに実施している継続調査である。

(2) 調査項目

- ① 生活各面の重要度及び充足度
- ② 生活領域別の政策優先度
- ③ 県民の価値観
- ④ 居住希望
- ⑤ 住宅を選択する条件
- ⑥ 本県（民）の長所及び短所
- ⑦ 生活状態の意識、変化、見通し
- ⑧ 生活状態の達成度と希望
- ⑨ 産業の振興度
- ⑩ 重点振興方策
- ⑪ 観光振興策
- ⑫ 国際化への対応
- ⑬ 米軍基地について
- ⑭ 県政の理解度

(3) 前回調査（第4回調査）との変更点

今回の調査では、一部設問について適切な表現への修正や項目の追加・削除等若干の変更を行ったものの、本調査が概ね5年ごとに実施している継続調査であることに重点を置き、ほぼ前回と同じ調査内容にした。

(4) 調査対象

- ① 母集団 県内に居住する満15歳以上、満75歳未満の男女
- ② 調査区数 200
- ③ 標本数 2,000人
- ④ 抽出方法 層化三段無作為抽出法

(5) 調査方法

留置法（調査票の配布及び回収を調査員が直接個別訪問して行った。）

(6) 調査期間

平成11年11月1日～11月30日

(7) 調査実施委託機関

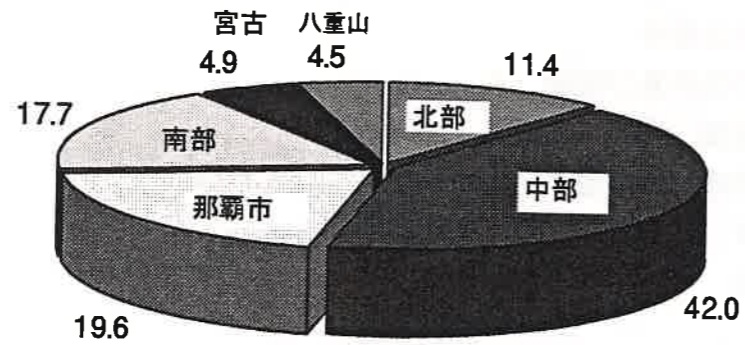
有限会社 沖縄地域工学研究所

(8) 回収結果

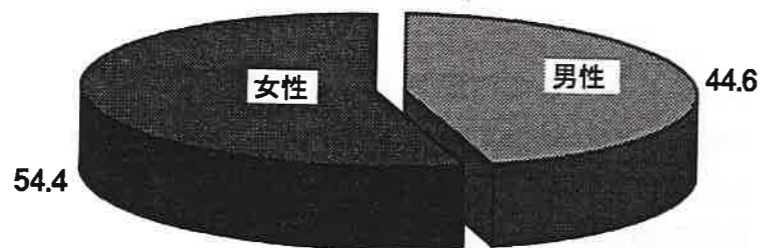
有効回収数 (率) 1,661人 (83.1%)

(9) 調査対象者 (回答者) のプロフィール

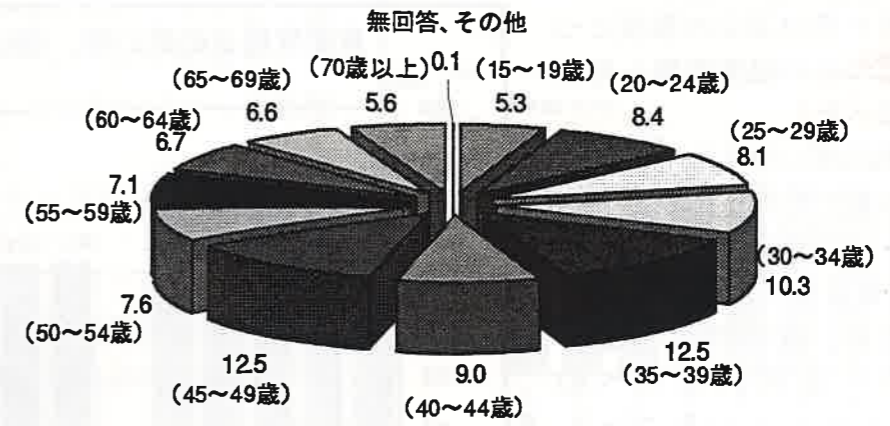
地域別回収数の構成比 (%)



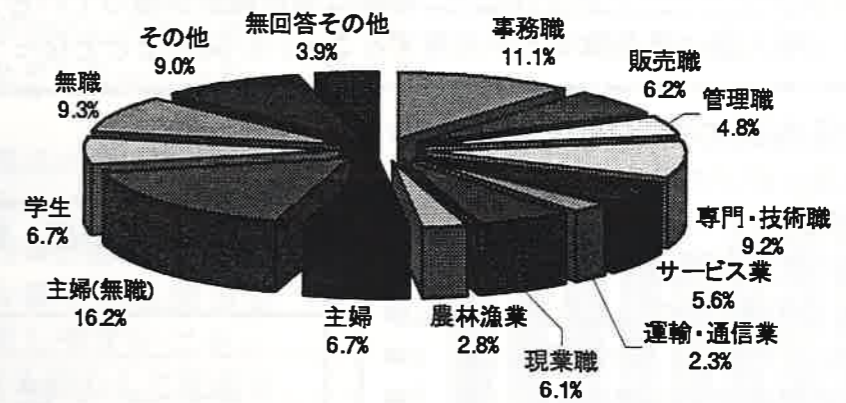
男女別回収数の構成比 (%)



年齢階層別回収数の構成比 (%)



職業別回収数の構成比 (%)



2 第5回県民選好度調査（平成11年11月調査）結果の要約

（問1）生活各面の重要度

生活に関連する64項目の事項について、それぞれの程度重要と考えているかを調べた。

最も重要度の高い項目は「犯罪におびやかされることなく、安心してくらすること」で4.61点となっており、以下、「老後に不安のない年金が得られること」4.51点、「地震、台風、火災、崖崩れなどへの対策がしっかりしていること」4.49点、「法律の適用が公正に行われること」、「いつでも安心して家庭で水が使えること」4.47点と続いている。

逆に、重要度の低い項目は、「盆踊りや運動会など、自分が住んでいるところの行事が盛んなこと」

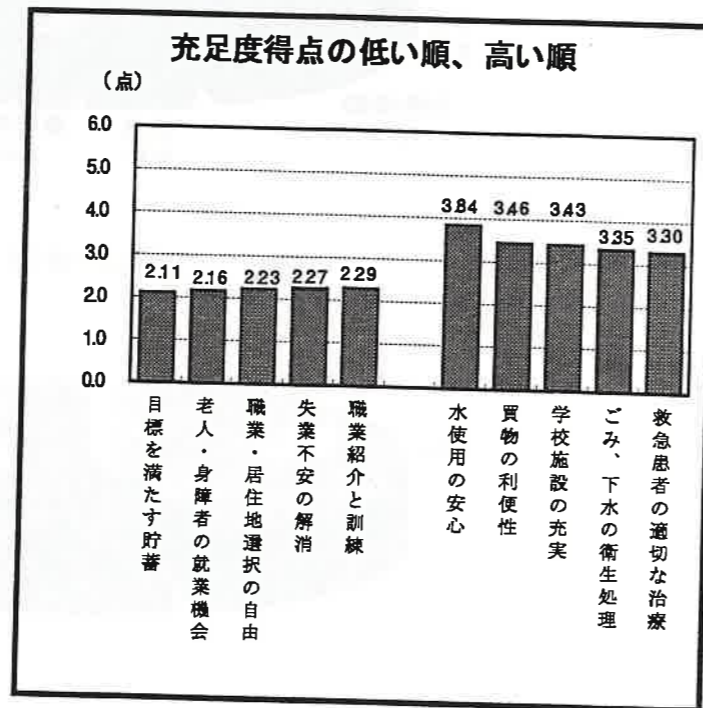
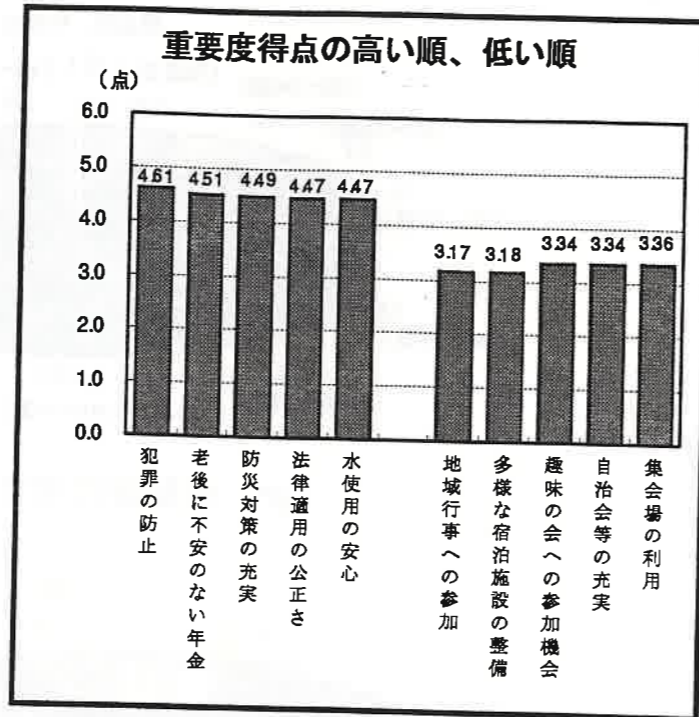
3.17点、「国民宿舎やリゾートホテルなど、多様な宿泊施設が整っていること」3.18点、「自治会や青年会、婦人会、老人会などが充実すること」3.34点などとなっている。

（問2）生活各面の充足度

同様に、64項目がどの程度充実しているかを調べた。

最も充足度の低い項目は「目標を満たすのに十分な貯蓄ができること」2.11点となっており、以下、「老人や心身障害者が希望すれば仕事につけること」2.16点、「住みたいと思うところで、希望する仕事につけること」2.23点、「失業の不安がなく働けること」2.27点、「職業紹介や就職訓練のための施設や内容が充実していること」2.29点と続いている。

逆に、充足度の高い項目は「いつでも安心して家庭で水が使えること」3.84点、「毎日の買い物が近くでできること」3.46点、「幼稚園・小・中・高校の施設が整っていること」3.43点などとなっている。



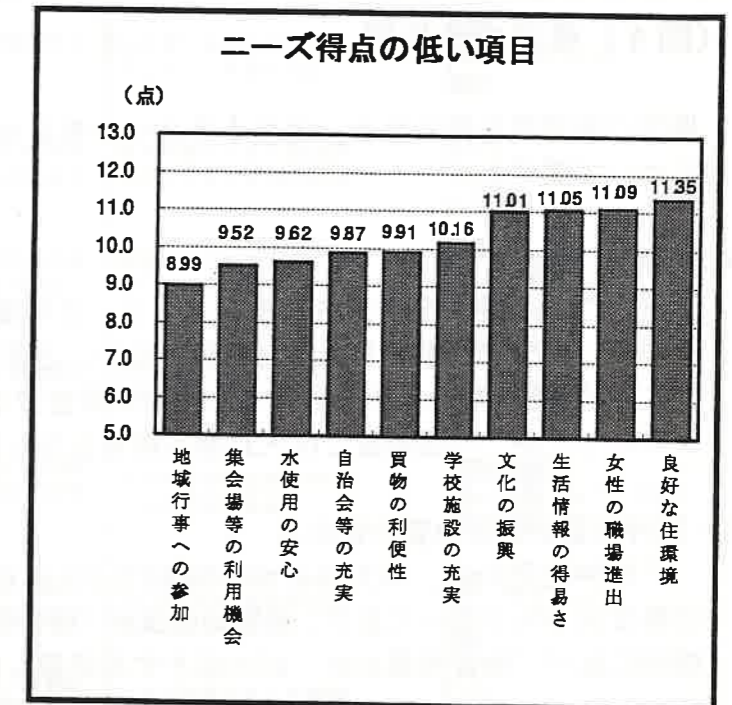
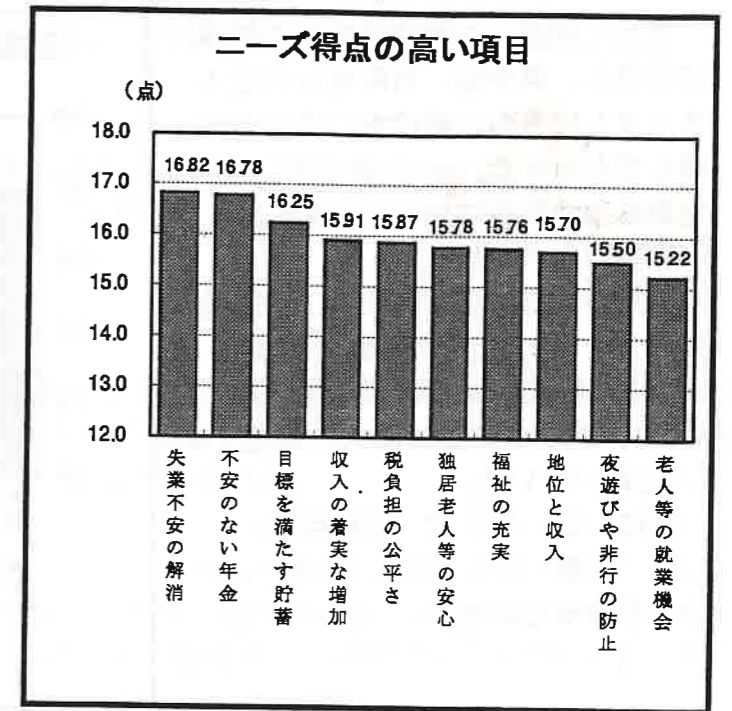
（問1.2関連）ニーズ得点

問1、2の重要度と充足度は、相互に関係しあっていることから（重要度得点）×（6－充足度得点）をニーズ得点とし、県民のニーズを調べてみた。

ここで、（6－充足度得点）は未充足度を意味し、ニーズ得点は、重要度、充足度によって変化し、重要度が高く、しかも充足されていない項目ほど、高くなるという関係にある。

ニーズ得点の高い項目は、「失業の不安がなく働けること」16.82点、「老後に不安のない年金が得られること」16.78点、「目標を満たすのに十分な貯蓄ができること」16.25点、「収入が着実に増えること」15.91点、「税負担が公平なこと」15.87点、「一人暮らしの老人とか母子家庭・父子家庭の人達が安心して暮らせること」15.78点などとなっている。

逆に、ニーズ得点の低い項目は、「盆踊りや運動会など、自分が住んでいるところの行事が盛んなこと」8.99点、「集会場や公民館が近くにあること」9.52点、「いつでも安心して家庭で水が使えること」9.62点、「自治会や青年会、婦人会、老人会などが充実すること」9.87点、「毎日の買い物が近くでできること」9.91点などとなっている。



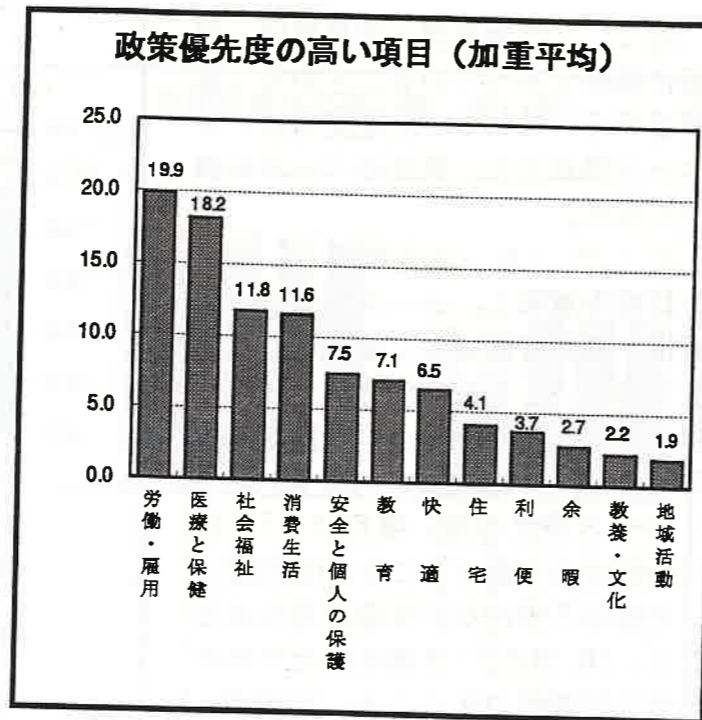
(問3) 生活領域別の政策優先度

生活に関連した諸側面を12の領域に分類し、県や国、市町村に力を入れてほしいものに順位をつけて3つ選んでもらった。

これらの回答にウェイトをつけ、加重平均を求めた。

政策優先度の高い項目は、「労働・雇用」19.9、「医療と保健」18.2、「社会福祉」11.8、「消費生活」11.6、「安全と個人の保護」7.5と続いている。

逆に、低い項目は「地域活動」1.9、「教養・文化」2.2、「余暇」2.7などとなっている。



(問4) 県民の価値観

県民の価値観を測るため、対立する2つの考え方について、それぞれどちらに最も近いかにについて調べた。

① 仕事と余暇

「いつでも仕事を優先させる」とする「仕事優先派」の回答45.6%に対して、「休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない」とする「余暇優先派」の回答は47.6%となり、「余暇優先派」が若干上回った。前回調査では、「余暇優先派」より「仕事優先派」が高かったが、今回調査では入れ替る結果となった。

② 精神的豊かさと物質的豊かさ

「精神的豊かさ」が大切とする回答77.0%に対して、「物質的豊かさ」が大切とする回答は16.0%となっており、多数の県民が「精神的豊かさ」を大切と考えている。だが、前回に比べ「物質的豊かさ」が大切とする回答も1.8ポイント増えている。

③ 女性の社会進出と家事専念

「女性は家事や育児に専念すべき」の回答36.2%に対して、「女性も社会に進出すべき」の回答は57.2%となっており、「女性の社会進出派」の回答が21ポイント上回った。

④ 女性の登用

「能力のある女性は積極的に登用すべき」の回答は81.2%と圧倒的多数を占め、一方、「能力があっても女性の登用は制限すべき」の回答は11.9%にとどまった。

⑤ 開発と自然の保護

「多少自然を破壊しても開発を進めるべき」とする「開発優先派」17.5%に対して、「多少不便でも自然を守るべき」とする「自然保護派」は76.3%となり、「自然保護派」の回答が大勢を占めた。

⑥ 改革と保守

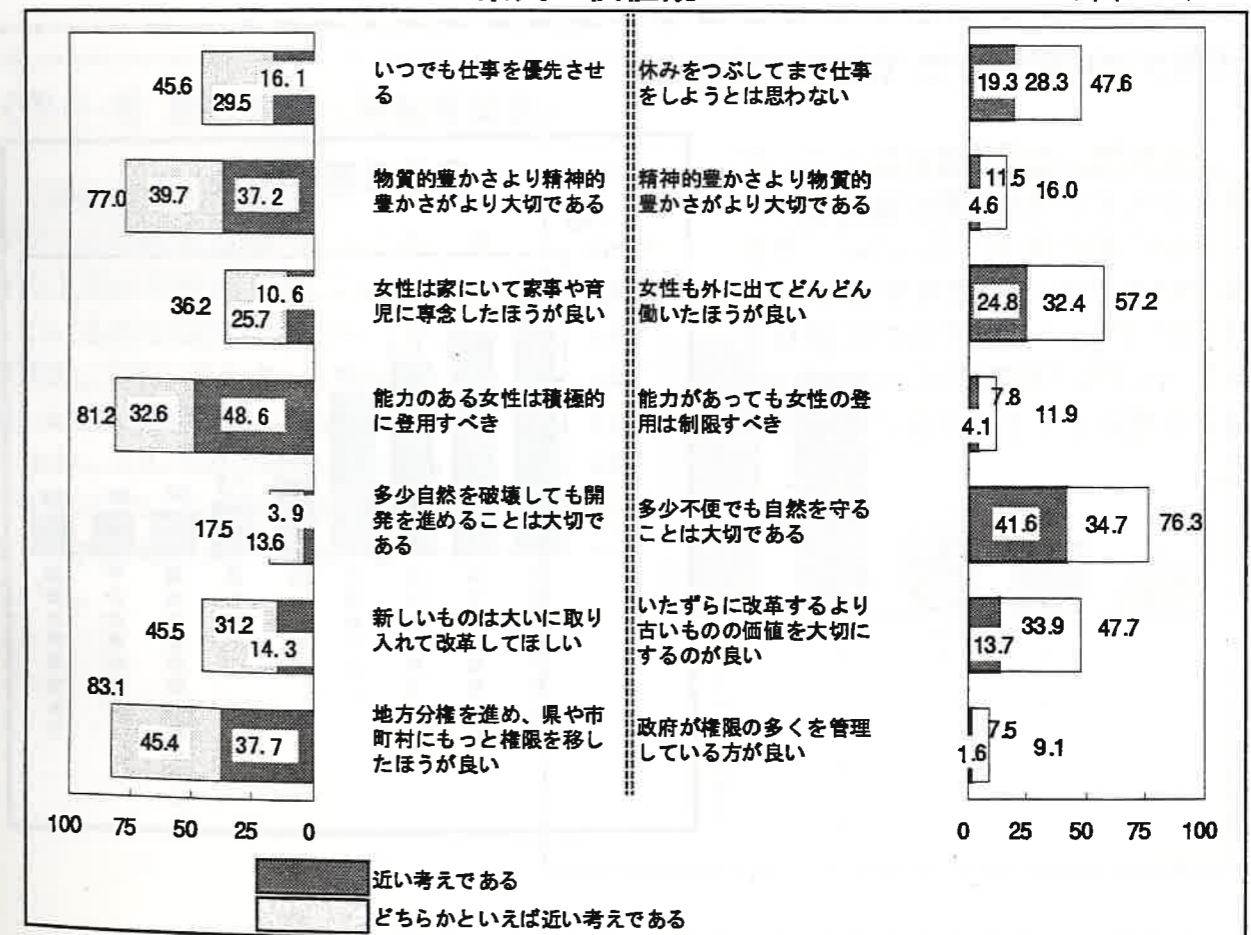
「新しいものは大いに取り入れて改革してほしい」とする「改革派」の回答45.5%に対して、「いたずらに改革するより古いものの価値を大切にするのが良い」とする「保守派」の回答は47.7%となり、「保守派」が若干上回った。

⑦ 地方分権と中央分権

「県や市町村にもっと権限を移すべき」とする「地方分権派」の回答83.1%に対し、「政府が権限を管理した方がよい」とする「中央集権派」の回答は9.1%にとどまった。

県民の価値観

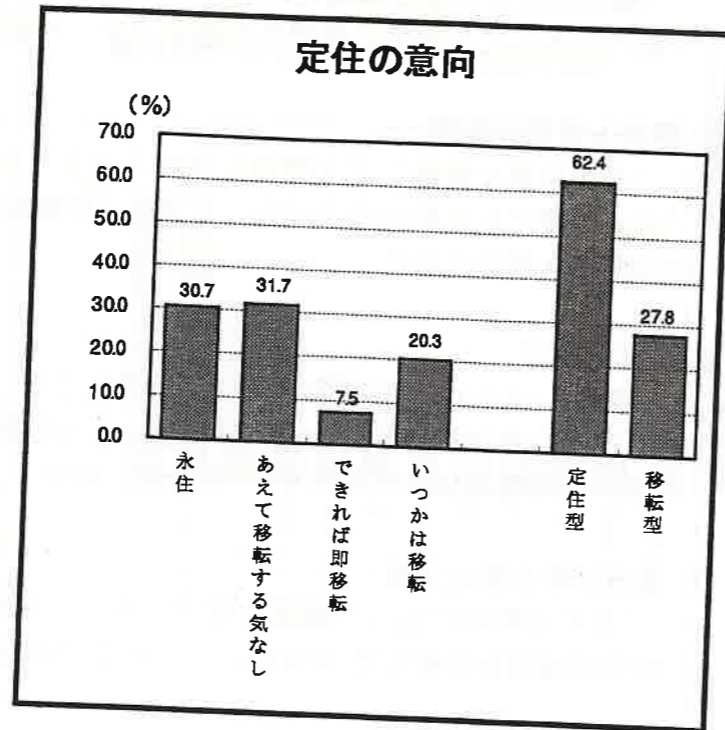
(単位: %)



(問5) 居住希望 (定住の意向)

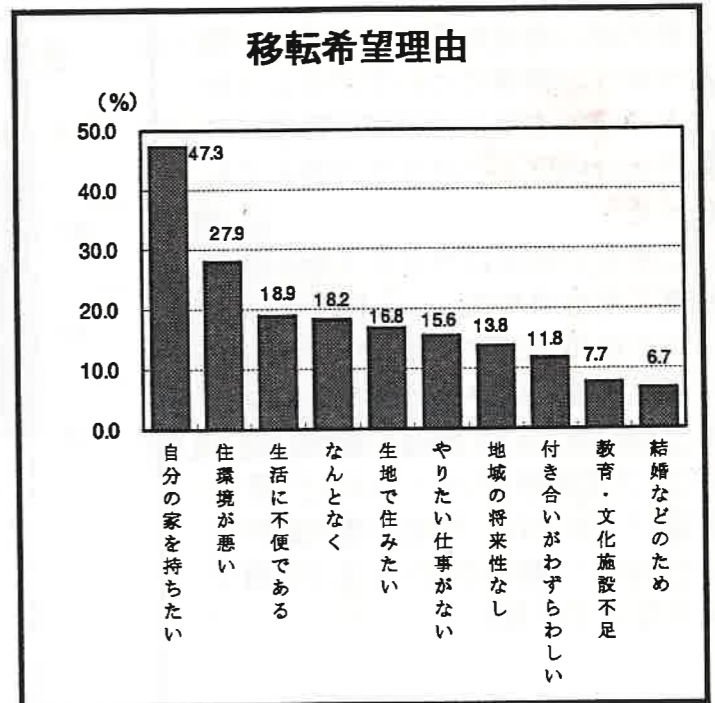
県民の定住及び移転の意向を調べた。

「いつまでも今住んでいるところに住みたい」と「特に住み続けたい」というほどではないが、よそに移る気もない」を合わせた「定住型」62.4%に対して、「できれば今すぐでもよそへ移りたい」と「いつかはよそへ移りたい」を合わせた「移転型」は27.8%となっており、移転志向より定住志向が2倍程度高くなっている。



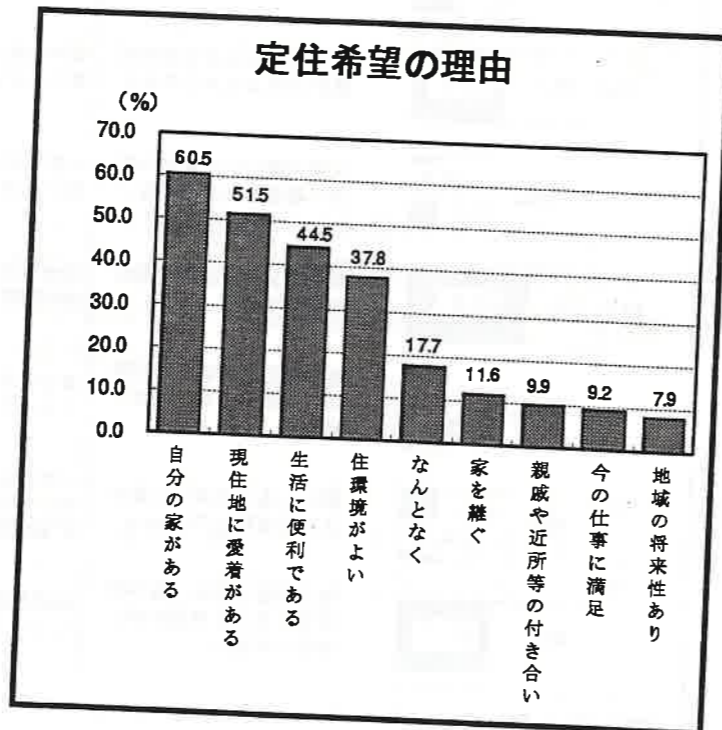
(問5-2) 居住希望 (移転希望理由)

「移転型」の回答者に対して、移転を希望する理由を調べたところ、「自分の家を持ちたい」47.3%、「住環境が悪い」27.9%、「生活するのに不便である」18.9%、「なんとなく」18.2%、「生まれ育ったところで住みたい」16.8%、「今住んでいるところではやりたい仕事がない」15.6%などを理由とする人が多くなっている。



(問5-1) 居住希望 (定住希望理由)

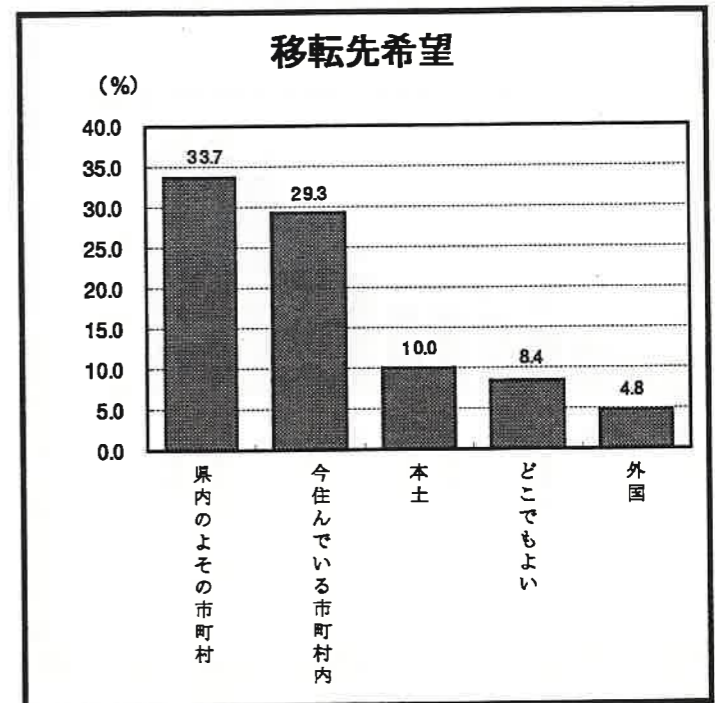
「定住型」の回答者に対して、定住を志向する理由を調べたところ、「自分の家がある」60.5%、「今住んでいるところに愛着を感じている」51.5%、「生活するのに便利である」44.5%、「住環境がよい」37.8%などを理由とする人が多くなっている。



(問5-3) 居住希望 (移転希望先)

「移転型」の回答者に対して、希望する移転先を調べたところ、「県内のよその市町村」33.7%、「今住んでいる市町村内」29.3%、「本土」10.0%、「どこでもよい」8.4%、「外国」4.8%の順になっている。

なお、「県内のよその市町村」と「今住んでいる市町村内」を合わせた「県内移転」は、63%と高くなっている。

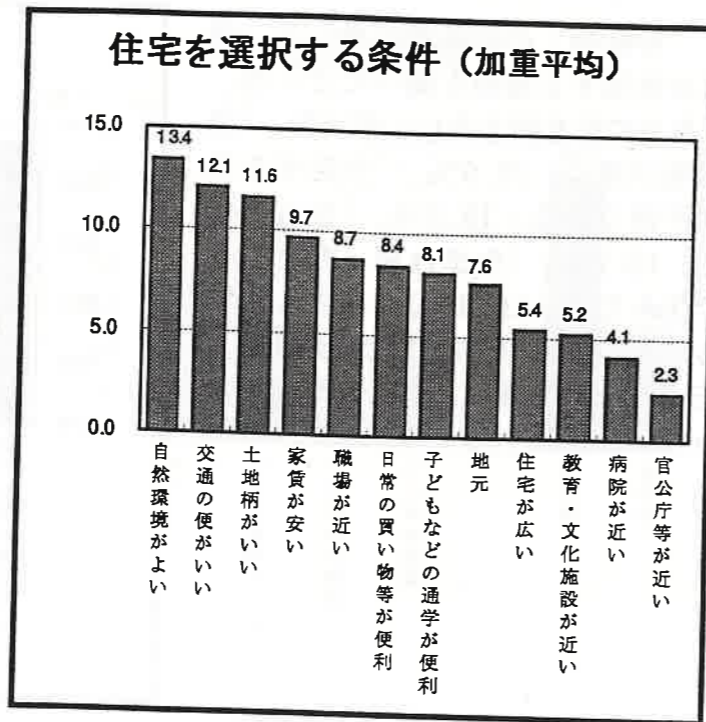


(問6) 住宅を選択する条件

県民が、住宅を選択する場合、住宅や周りの環境についてどのようなことを望むのかについて、12項目の条件から順位をつけて3つ選んでもらった。

これらの回答にウェイトをつけ、加重平均を求めた。

この結果、住宅を選択する条件は、「自然環境がよい(公園が近いなども含む)」13.4、「交通の便がいい」12.1、「土地柄がいい」11.6、「家賃が安い(または、住宅の購入費が安い)」9.7、「職場が近い」8.7の順で高くなっている。



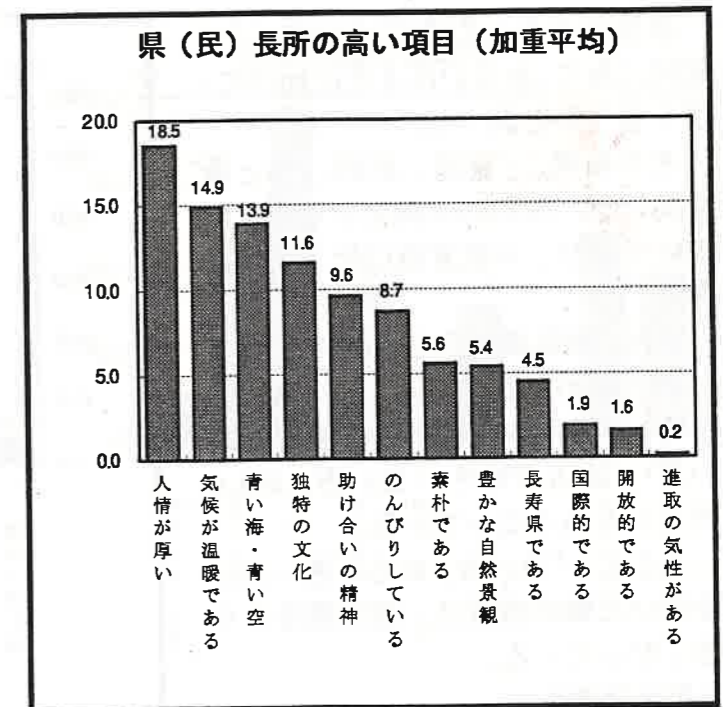
(問7-1) 本県(民)の長所

一般に本県又は県民の長所と言われている事柄13項目を選び、その中から順位をつけて3項目を選択してもらった。

これらの回答にウェイトをつけ、加重平均を求めた。

この結果長所は、「人情が厚い」18.5、「気候が温暖である」14.9、「青い海・青い空」13.9、「独特の文化がある」11.6、「助け合いの精神が強い」9.6、「のんびりしている」8.7の順になっている。

なお、「人情が厚い」と「気候が温暖である」は、前回調査と同様に上位を占めているが、その評価は低下している。それに代わって、「独特の文化がある」は、前回調査の5位から4位となり、その評価が高まった。



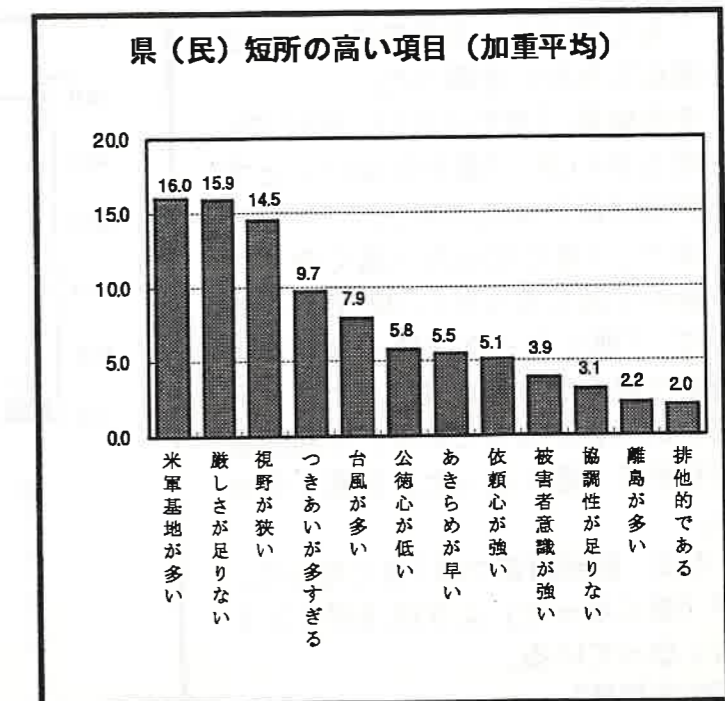
(問7-2) 本県(民)の短所

次に、一般に本県又は県民の短所と言われている事柄13項目を選び、その中から順位をつけて3項目を選択してもらった。

これらの回答にウェイトをつけ、加重平均を求めた。

この結果短所は、「米軍基地が多い」16.0、「厳しさが足りない」15.9、「視野が狭い」14.5、「つきあいが多すぎる」9.7、「台風が多い」7.9、「公德心が低い」5.8の順になっている。

なお、「米軍基地が多い」とする評価は、前回調査より3.3ポイント高まり、順位も前回の3位から1位に上昇した。



(問8-1) 生活状態の意識

現在のくらしむきについて、「一般的にみて、あるいはよそに比べて」どう思うかを調べた。

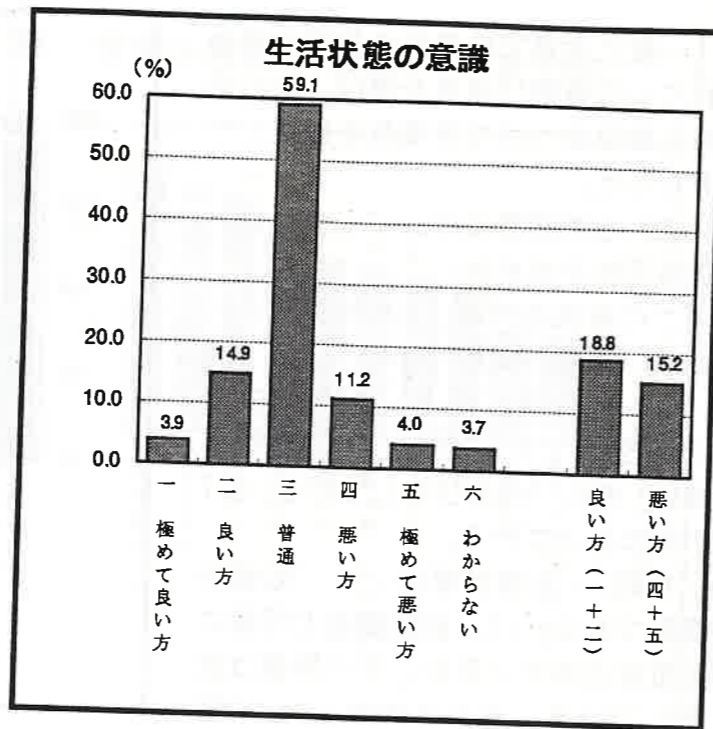
その結果、「普通」が59.1%と最も高いが、昭和59年調査から減少が続いており、中流意識は低下傾向にある。

また、回答者のうち、「良い方(良い方+極めて良い方)」18.8%に対して、「悪い方(悪い方+極めて悪い方)」は15.2%で、「良い方」が3.6ポイント高くなっている。

しかし、「良い方」から「悪い方」を引いた動向指数は、前回調査より低くなっている。

《動向指数》

- 平成11年調査：+3.6ポイント
- 平成7年調査：+4.8ポイント



(問8-2-1) 生活状態の変化

くらしが「4, 5年前に比べてどう変化したか」を調べた。

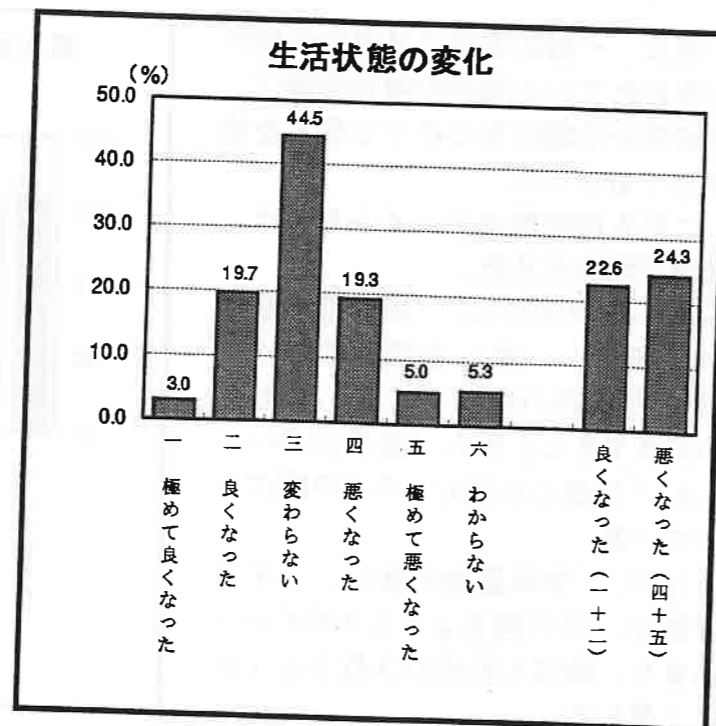
その結果、「変わらない」が44.5%と最も高いが、「変わらない」とする評価は低下傾向にある。

また、「良くなった(良くなった+極めて良くなった)」22.6%に対して、「悪くなった(悪くなった+極めて悪くなった)」は1.6ポイント高い24.3%となっており、今回調査で初めて「悪くなった」が高くなった。

なお、前回調査では「良くなった」が「悪くなった」より13.6ポイント高くなっている。

《動向指数》

- 平成11年調査：△1.7ポイント
- 平成7年調査：+13.6ポイント



(問8-2-2) 生活状態の見通し

今後のくらしむきは、「現在の生活に比べて」どのようになると思うかについて調べた。

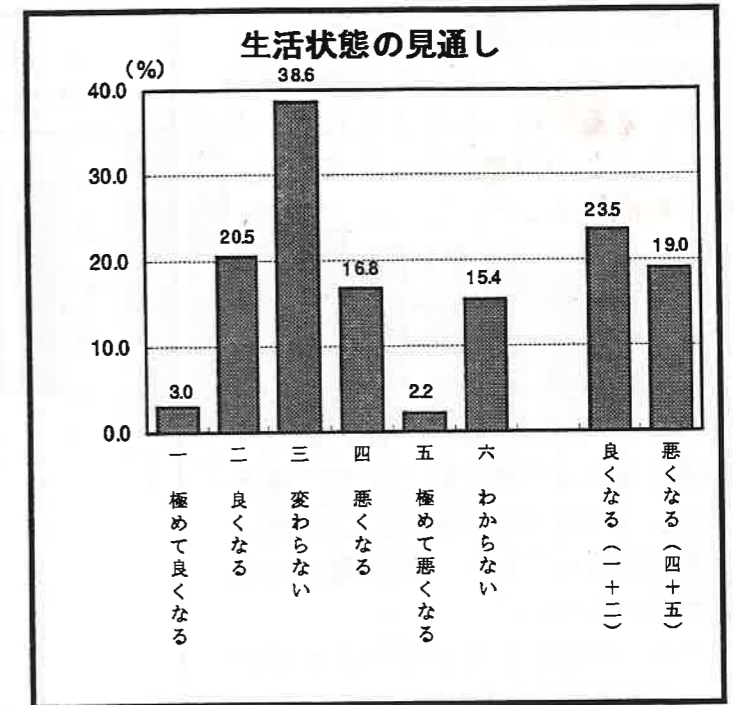
その結果、「変わらないと思う」が38.6%と最も高くなっており、その評価は前回調査とほとんど変わらない。

また、「良くなると思う(良くなると思う+極めて良くなると思う)」23.5%に対して、「悪くなると思う(悪くなると思う+極めて悪くなると思う)」は4.5ポイント低い19.0%となっている。

しかし、「良くなると思う」から「悪くなると思う」を引いた動向指数は、低下傾向にあり、前回調査より10.0ポイント低くなっている。

《動向指数》

- 平成11年調査：+4.5%ポイント
- 平成7年調査：+14.5ポイント

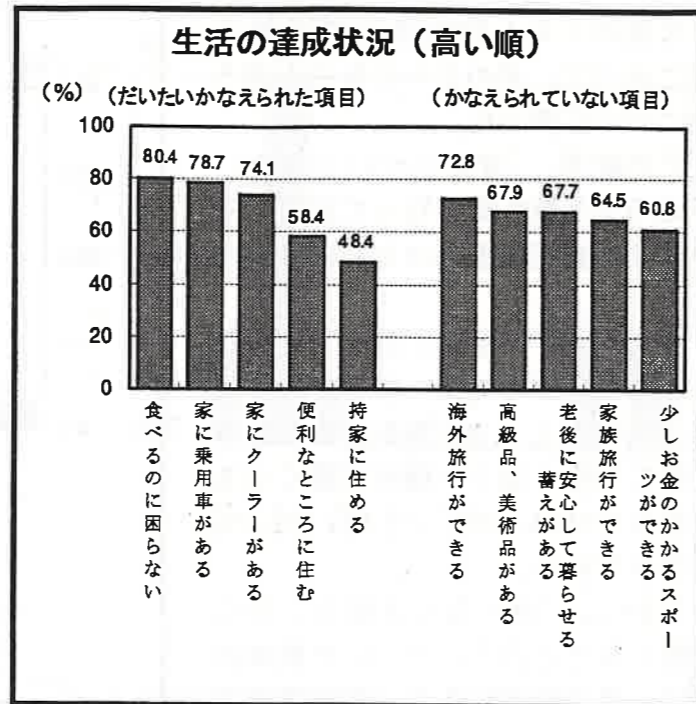


(問9-1) 生活状態の達成度

県民の生活状態を表す代表的な19項目に対して「だいたいかなえられた」あるいは「かなえられていない」かどうかの生活の「達成状況」について調査した。

その達成状況をみると、「食べるのに困らない暮らし」の80.4%、「家に乗用車がある暮らし」の78.7%、「家にクーラーのある暮らし」の74.1%、「通勤や通学、買い物などに便利なお店に住むことができる暮らし」の58.4%が50%以上の高い達成度になっており、前回調査と順位は変わらない。

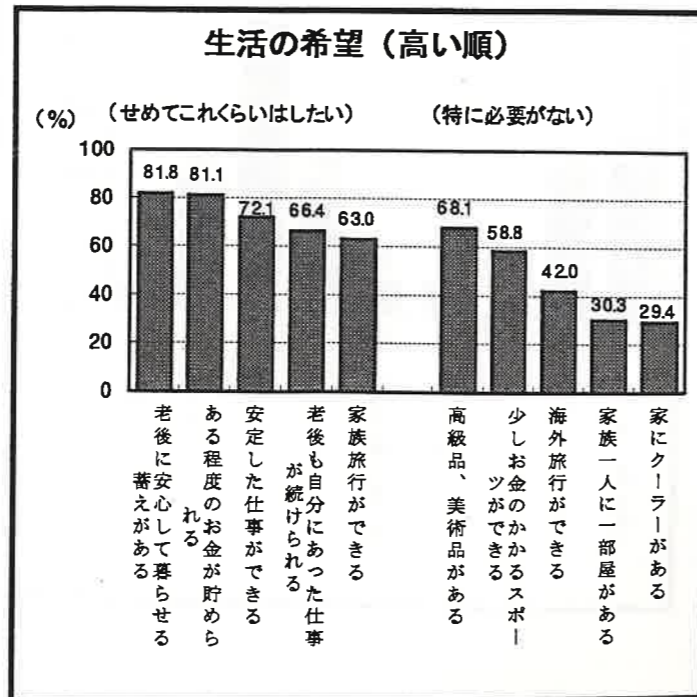
一方、達成されていないとするのは、「海外旅行ができる暮らし」72.8%、「高級品、美術品などのある暮らし」67.9%、「老後に安心して暮らせるだけの蓄えのある暮らし」67.7%の順になっている。



(問9-2) 生活状態の希望

問9-1の「達成状況」で、「かなえられていない」あるいは「わからない」と回答した項目について、その暮らしを「せめてこれぐらいはしたい」、あるいは「特に必要がない」かどうかの生活の「希望状況」を調べた。

その希望状況をみると、「老後に安心して暮らせるだけの蓄えのある暮らし」81.8%、「ある程度お金が貯められるよう暮らし」81.1%、「安定した仕事ができる暮らし」72.1%、「老後にも自分にあった仕事が続けられる暮らし」66.4%、「家族旅行ができる暮らし」63.0%で高い希望がみられる。

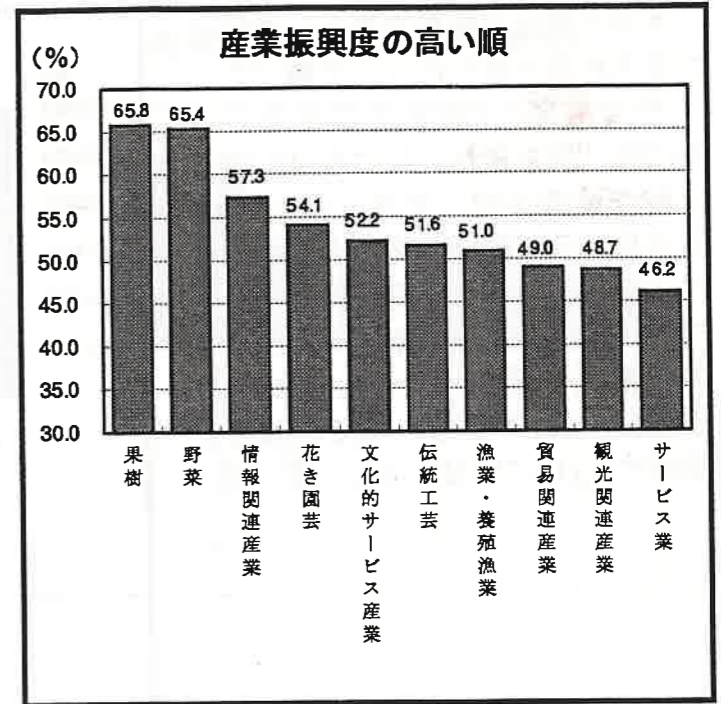


(問10) 産業の振興度

本県の振興のために、それぞれの産業にどれくらい力を入れるべきかを調査し、回答の「特に力を入れる」と「もう少し力を入れる」を合計し、積極的に振興を図るべき産業を調べた。

この結果、「果樹」65.8%、「野菜」65.4%と農業分野が上位に挙げられており、続いて「情報関連産業」57.3%、「花き園芸」54.1%、「文化的サービス産業」52.2%、「伝統工芸」51.6%の順になっている。

前回調査と比較すると、農業分野の「果樹」と「野菜」の順位は前回と同じになっているが、「情報関連産業」は前回より順位が上昇し3位となった。

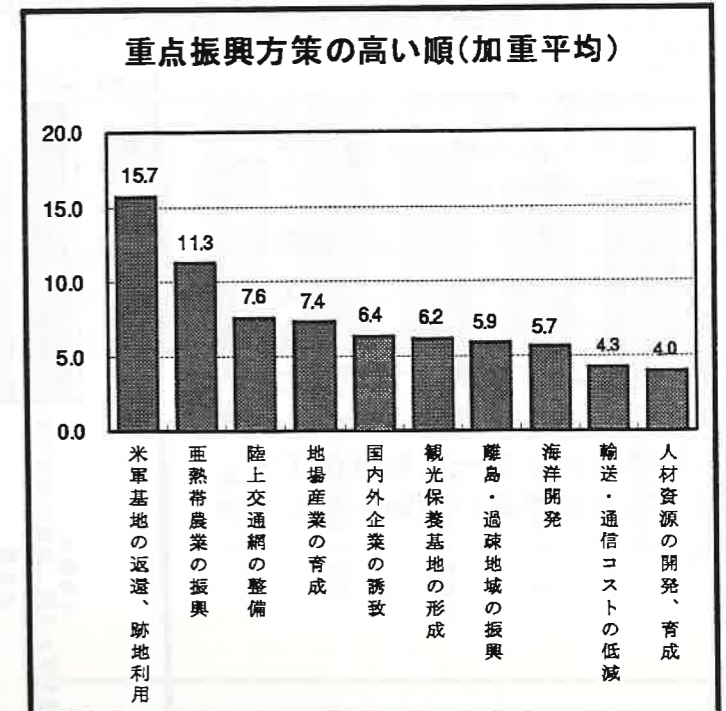


(問11) 重点振興方策

本県の振興方策として、行政がどのようなことに重点をおくべきかについて、順位をつけて3つ選んでもらった。

これらの回答にウェイトをつけ、加重平均を求めた。

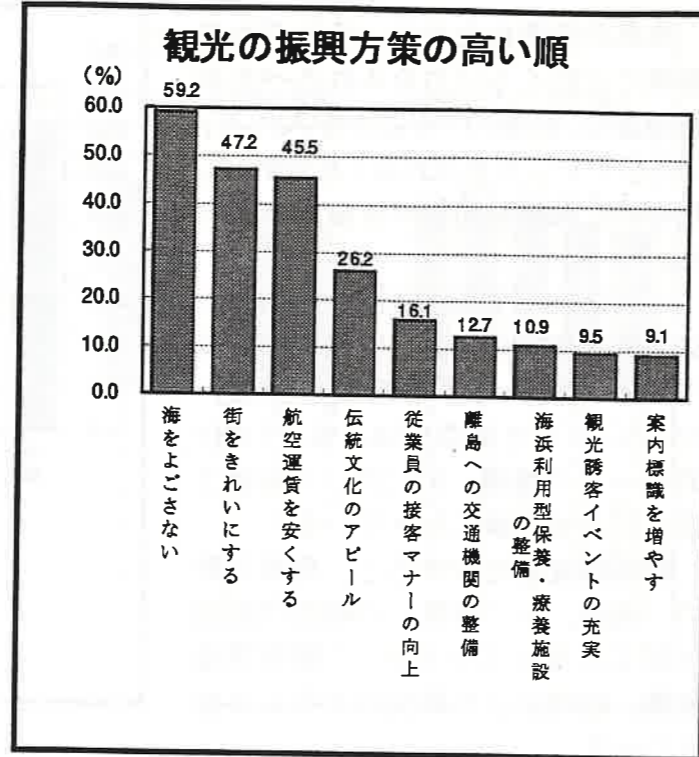
その結果、「米軍基地の返還とその跡地利用」が15.7と前回調査と同様最も高くなっている。続いて「特色ある亜熱帯農業の振興」11.3、「陸上交通網の整備（道路、モノレールなど）」7.6、「地場産業の育成（県産品の本土・海外への販路拡大等）」7.4、「国内外企業の誘致」6.4、「国際的な観光・保養基地の形成（リゾート開発など）」6.2などとなっている。



(問12) 観光振興策

本県の観光の振興方策として何に力を入れるべきかについて調べた。

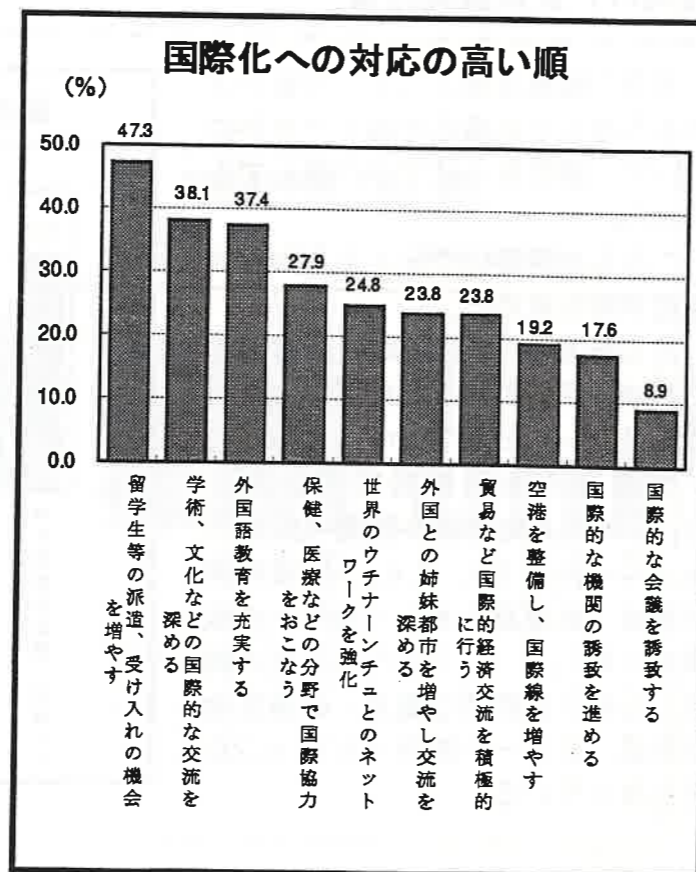
その結果、「海をよごさない」59.2%、「街をきれいにする」47.2%、「航空運賃を安くする」45.5%の3項目が5割前後の高い比率を示している。続いて「沖縄の伝統文化をアピールする」26.2%、「観光関係の従業員の接客マナーを向上させる」16.1%、「離島への交通機関を整備する」12.7%などとなっている。



(問13) 国際化への対応

本県の国際化に向けてどのようなことに力を入れるべきかについて調べた。

この結果、「留学生、研修生の派遣、受け入れの機会を増やす」が47.3%で1位になった。続いて、「学術、文化、スポーツなどの国際的な交流を深める」38.1%、「外国語教育を充実する」37.4%、「保健、医療、農業などの分野で国際協力を行う」27.9%、「世界のウチナーンチュとのネットワークを強化する」24.8%などが高い比率を示している。

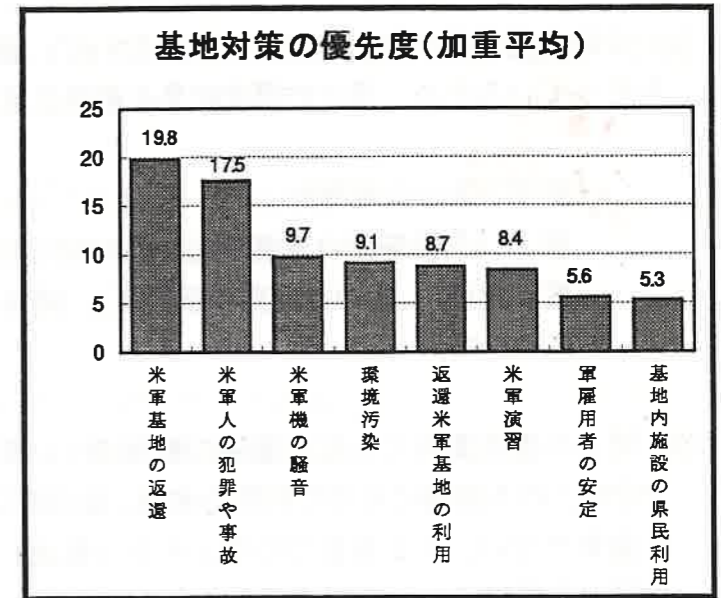


(問14) 米軍基地について

米軍基地について、県や国に特に力を入れてほしいものについて、順位をつけて3つ選んでもらった。

これらの回答にウェイトをつけ、加重平均を求めた。

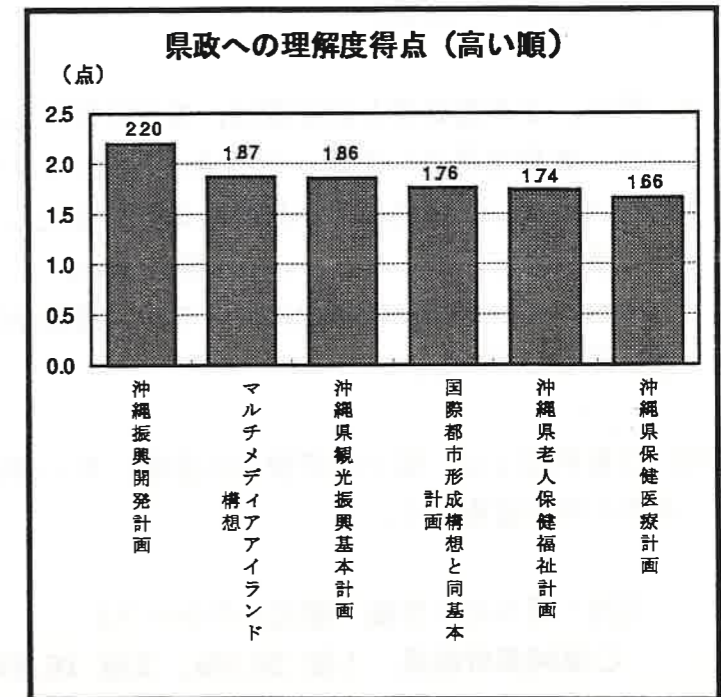
その結果、「基地を返還させる」が19.8、「米軍人の犯罪や事故をなくすこと」17.5が高い数値を示している。続いて、「米軍機の騒音をなくすこと」9.7、「環境汚染の対策を講じること」9.1、「返還された軍用地を早めに利用できるようにすること」8.7、「米軍の演習をなくすこと」8.4と続いている。



(問15) 県政の理解度

県政に対する県民の理解度をみるために、県の各種計画、構想、施策等について、それぞれどの程度知っているかを調べた。

最も理解度の高いものは、県の上位計画である「沖縄振興開発計画」で2.20点となっており、以下、「マルチメディアアイランド構想」1.87点、「沖縄県観光振興基本計画」1.86点、「国際都市形成構想と同基本計画」1.76点、「沖縄県老人保健福祉計画」1.74点と続いている。



3 第5回県民選好度調査（平成11年11月調査）の留意事項と用語の解説

(1) 今回の調査票では、下記の設問において、適切な表現への修正や項目の追加・削除を行っているため、過去の調査結果と単純に比較することができない場合がある。

《変更のあった設問》

問1（生活各面の重要度）、問2（生活各面の充足度）、問9（生活状態の達成度と希望）、問10（産業の振興度）、問11（重点振興方策）、問14（米軍基地について）

(2) 問1の重要度得点とは、重要の程度について「非常に重要である」から「全く重要でない」の5段階に分けて回答を求め、各段階に「非常に重要である」=5点から「全く重要でない」=1点までのウェイト（得点）を与え、各項目毎に平均得点を求め、県民の重要度に対する指標としたものである。

《例：問1の「体力の維持や増強に努めること」のケース》

$$\frac{(27.3 \times 5) + (42.9 \times 4) + (16.0 \times 3) + (8.3 \times 2) + (0.8 \times 1)}{27.3 + 42.9 + 16.0 + 8.3 + 0.8} \approx 3.92$$

(3) 問2の充足度得点、問15の県政の理解度得点についても、重要度得点と同様の方法で求めたものである。

(4) 問1、2の重要度と充足度は、相互に関係しあっていることから（重要度得点）×（6－充足度得点）をニーズ得点とした。（6－充足度得点）は未充足度を意味し、ニーズ得点は、重要度、充足度によって変化し、重要度が高く、しかも充足されていない項目ほど、高くなるという関係にある。

なお、ニーズ得点の算出においては、端数処理されていない重要度得点と充足度得点を使用している。

(5) 加重平均とは、個々の変数（回答率）を一律に扱わず、ウェイト（重み）を付けて求めた平均値をいう。

《例：問3の「労働・雇用」のケース》

○単純集計結果 1位 26.3%、2位 16.3%、3位 8.1%

○ウェイト付け 1位 3点、2位 2点、3位 1点

○加重平均 $[(26.3 \times 3) + (16.3 \times 2) + (8.1 \times 1)] / 6 \approx 19.9$

4 過去における県民選好度調査の実施状況

県民選好度調査は、昭和53年10月に予備調査を実施し、昭和54年12月の第1回調査を皮切りに概ね5年毎に調査が実施されており、今回の調査は第5回目の調査となる。これまでの調査の実施状況は以下のとおりである。

○第1回調査 調査期間：昭和54年12月20日～12月30日
標本数：5,000人（離島特別調査500人）

○第2回調査 調査期間：昭和59年1月10日～1月20日
標本数：3,000人

○第3回調査 調査期間：平成2年1月10日～1月20日
標本数：3,000人（離島特別調査300人）

○第4回調査 調査期間：平成7年1月10日～2月5日
標本数：2,000人

(注) 標本数におけるカッコ書きの離島特別調査は、各離島の持つ特殊なニーズが反映されるように調査項目を別途設定し、離島を対象に実施した調査である（本標本数は外数）。